

京都の紅葉スポット

姫氏原 えり

(2020 年入学 4 期生)

私の好きな京都として、「永観堂」と「源光庵」を挙げる。この二つのお寺は京都の中でも紅葉の名所として知られており、京都の紅葉スポット特集などでもよく取り上げられている。今回は私が実際に紅葉の時期に訪れて感じた魅力について紹介していきたい。

まず紹介するのが永観堂である。京都の東山連峰のひとつである若王子山の西のふもとに位置しており、京都駅からは市バスと徒歩合わせて 1 時間以内で行くことができる。この場所は「モミジの永観堂」の愛称で親しまれているほど紅葉が有名であり、毎年秋になると国内外から多くの参拝客が訪れている。



私が訪れた日もちょうど紅葉のシーズンであったことから、日本人だけでなく海外からの参拝客の姿が多く見られた。

「永観堂」という名前では知られていることが多いが、それは第七世永観律師にちなんだ通称であり、正式な寺名は「聖衆来迎山無量寿院禅林寺」である。その歴史として始めは真言密教の寺であった。平安時代に当たる貞観 5 年（863）には弘法大師の高弟・真紹僧都が清和天皇から寺院建立の許可をもらい、「禅林寺」という名を賜った。その後文章博士の源国経の子である永観律師が現れ、恵まれない人々のために境内に施療院を建てたことから、永観律師を慕う人々によって禅林寺はいつしか永観堂と呼ばれるようになったのである。また鎌倉時代に住職になった証空上人は法然上人の愛弟子であり、すべてを阿弥陀佛にまかせきってとなえるお念佛の大切さを説き、「白木の念佛」と名づけて人々に勧めた。それは阿弥陀さまが私たちのような者でも一人残さず救ってくれることへの喜びの念佛であった。のちに永観堂は法然上人を宗祖に、証空上人を派祖とする浄土宗西山禅林寺派の総本山となった。



永観堂のひとときわ高い位置に見える多宝塔は昭和 3 年（1928）に建立された純粹の和様式であり、上部は円形、下部は方形の二重塔である。また屋根の上に伸びる心柱に九輪と水煙が付いているのは五重塔や三重塔のようで珍しい造りになっている。高い位置にあるため、ここから京都の町並みを一望することができる。

永観堂の一番南に位置する阿弥陀堂は本尊がまつられている本堂であり、慶長 12 年に大

阪から移築された。堂内は極彩色で、格天井には「百花」が描かれている。また両端の長方形の部分にだけ白く塗った「散り蓮華」が描かれているのも特徴的である。本尊である阿弥陀如来立像は国の重要文化財に指定されており、顔が正面を向かずに左後方を振り返っている姿であることから「みかえり阿弥陀」の名称で親しまれている。その歴史として永保2年（1082）2月、永観が念仏行道（経を読みながら仏像の周囲をめぐる）をしていると阿弥陀像が壇から降りて永観の先に立って行道し始めた。それに驚いた永観が立ち竦んでいると像が首を左に回して「永観、遅し」と声をかけた。その後も像は振り返った状態のままであったからであるとされている。この阿弥陀如来が現代の私たちに教えるものは遅れる者を待つ姿勢、思いやり深くまわりをみつめる姿勢、そして自分自身をかえりみ、人々とともに正しく前へ進む姿勢である。

次に紹介するのは源光庵である。源光庵は京都市の北区に位置している。京都駅から少し離れているため参拝客の人数はそこまで多くなかったが、紅葉を撮るために一眼レフカメラを持った参拝客の姿が多く見られた。



正式名称は「鷹峯山宝樹林源光庵」という曹洞宗の寺院である。その歴史として今から約670年前の貞和2年（1346）、臨済宗大徳寺2代徹翁国師によって開創、元禄7年（1694）に加賀・大乘寺27代叡山道白禅師が住持して以降、曹洞宗の寺院となった。開山である叡山道白禅師は学徳兼備の当世随一の高僧と称されており、「釈尊に還れ、祖師に還れ」を唱えていたとされている。また源光庵の本尊として華嚴の釈迦牟尼佛、脇立に阿難尊者、迦葉尊者が祀られている。

本堂には「悟りの窓」、「迷いの窓」と名づけられた窓があり、この二つの窓から見える紅葉が幻想的であった。悟りの窓は円形で「禅と円通」の心を表わし、円は大宇宙を表現している。迷いの窓は角形で「人間の生涯」を象徴し、生老病死の四苦八苦を表わしている。

また本堂には伏見桃山城の遺構とされる血天井がある。これは慶長5年7月（1600年）徳川家康の忠臣・鳥居彦右衛門元忠一党千八百余人が、石田三成の軍勢と交戦したが、討死し、残る三百八十余人が自刀して相果てたときの痕跡であるとされている。

これまで永観堂と源光庵の魅力について紹介したが、どちらのお寺も紅葉をはじめ、多くの魅力が詰まっていた。永観堂は本尊である阿弥陀如来立像以外にも多くの文化財があり、文化財を一つ一つ見て触れるためにもまた訪れたいと思った。源光庵は先ほど紹介した二



つの窓から見える景色が紅葉の時期だけでなく、夏には新緑、冬には雪を楽しむことができるため、紅葉の時期以外にも訪れて写真を撮りたい。

参考文献

永観堂禅林寺,「永観堂 禅林寺」(<http://www.eikando.or.jp>)

DIGITALIO CPOT コトバンク,「行道」(<https://kotobank.jp/word/行道-52918>)

小木曾 善龍・安部 龍太郎,2007,『古寺巡礼京都 禅林寺』,淡交社.

曹洞宗源光庵,「源光庵」(<https://genkouan.or.jp>)